



森 正勝 氏

連合駿台会九月例会

「経営戦略と人材戦略」

学校法人国際大学特別顧問 森正勝氏

連合駿台会平成二十五年九月の例会を、九月十九日（木）十二時より、明治大学「紫紺会」四階会議室で、森正勝氏をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、山口政廣会長から次のような挨拶がありました（挨拶主旨）。

今年は暑い年で、台風や豪雨さらに竜巻まで発生し、気象状況もずい分変わったという気がする。テレビの報道を見ると被害も甚大で、困難に立ち向かっている人たちの姿を見るにつけ、一昨年の中日本大震災を思い出し、一刻も早い復旧を願わずにはいられない。

先日、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まったことで国民は歓喜し、私自身も日本にとってよい決断だっ

たと思っている。ところが翌日からの各国新聞の翻訳版を読んでもみると、残念ながら福島の問題について言及しているものが多い。これに対して安部首相がきちんとしたコメントをしているのは心強いし、また国際的に公約したのだから福島の問題に関しては万全を期されるだろうから、いまだ自宅に戻れない十五万人の方にとってもよかったと思う。

TPP協定では日本も参加してスタートしたが、八月七日から九日にかけて開催された、日米並行協議の内容の詳細は意外に報道されていない。これは日米貿易の障害に関する話し合いだが、過去の例で言えば、日本からよりもアメリカからの不公平の提起が多く、その行方が懸念される。通常の関税問題に加え、投資や環境問題なども出ており、特に自動車の規制緩和が強く要求されている。日本の場合、国土が狭く、その多くが海岸べりに住んでいて住宅が密集するので、騒音や排気ガスに対する規制基準が厳しい。一方、アメリカはあれだけの国土があり人口密集度も低いので、規制も比較的緩やかであるという環境事情の違いもあり、この規制問題には苦慮しているのが実情のようだ。TPPはマスコミでも騒がれるが、実際は日米並行協議のほうが日本経済への影響が大きそうだというのが私の感想である。

連合駿台会の活動でいえば、運営委員会

連合駿台会報

No.312 平成25年11月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052 千代田区神田小川町三―二二
 明治大学「紫紺館」内
 電話（〇三）三二九六―四七四七
 印刷 有限会社 美創

を立ち上げ様々なことを討議し、各委員会の活動も活発になってきている。会員も順調に増加し、若い人たちの参加も多くなった。その方たちからの要望もあり、ビジネス勉強会を開催（十月二日）したり、会員になる前に、会の内容を知るために「体験参加」として参加するシステムも取り入れている。連合駁台会を周知した上で、会員を増やしていきたいと思うので、今後ともご協力願いたい。当日の講演の要旨は以下の通りです。

日本企業の競争力低下

I M Dの調査によると、日本の競争力は一九九〇年は世界一位でありましたが、二〇一二年では二十七位となり大幅な地滑り状態です。フォーチュン世界五百社のランキングでも日本企業は一九九五年には百四十九社が入っていましたが、二〇一二年では六十八社と約半減しております。その間に中国企業は躍進を続けて、七十三社と大幅な増加を示しています。国民一人当たりの所得もPPPベース（購買力平価）ではシンガポール、香港、さらには台湾にも追い越されております。

過去二十一年間にこれほどまで日本の産業、また企業が衰退を繰り返したかを私なりに整理しますと、大きく五つの原因になります。

一、グローバル化への対応遅れ
世界経済はヨーロッパの一端、アメリカ

を加えた二極、日本を加えた三極へと変遷し、今や中国、インド、ブラジル等の新興国の成長が目覚ましく多極化時代を迎えております。政治の世界もG7からG20にパワーがシフトしています。この急激なシフトの中で多くの日本企業は豊かな国内市場と利益率の高い欧米の市場に安住し、高い成長を続ける新興国市場の開発に立ち遅れてしまい、中国や韓国に大きく先を越されてしまいました。

二、サービス産業化への立ち遅れ

先進国の経済は急激にサービス産業へとシフトしており、日本では約七〇%がサービス産業です。製造業では素晴らしく生産性を向上させて来ましたが、行政、金融、情報のサービス業はそれについて行きませんでした。その結果、日本全体の生産性、ひいては国際競争力を低めることになりました。

三、資本と労働の固定化

日本では産業間、企業間の生産性格差が非常に大きく、硬直化しております。それは各種規制や慣習の下で資本と人間が、生産性の低い所から高い所へと移動していないことによるものです。

四、ITの利活用の遅れ

行政や企業でのITの利活用レベルが国の成長率や企業の競争力に大きなインパクトを与えることは実証済みです。日本の通信などによるIT基盤は世界で誇るレベルになり

図1 グローバルビジネスリーダーの不足

多くの日本企業は卓越した技術と膨大な資本を蓄積してきたがグローバルビジネスリーダーが圧倒的に不足している



ましたが、そのアプリケーションにおいて立ち遅れています。五、グローバル人財の不足
日本は膨大な資本と技術を蓄積してきました。企業部門の保有資金が二百五十兆円を超えて、また世界でパテント価値の高額保有企業十社の中の半分を日本企業が占めています。

す。しかしながら、これらの素晴らしい資金と技術を持って世界で勝負するグローバルリーダーが大量に不足しています（図1）。近年、グローバル化に遅れを取らないようにと豊かな資金量と円高に煽られて海外事業の買収が増加しており、昨年だけでも七兆三千億円になっております。海外の会社を買っても、それを経営する人財がいなかったために、過去に多くの実例があるように五年以内に大幅な減損を強いられる企業が続出していくことが懸念されます。

世界では韓国人、中国人、インド人の活躍が目立ちます。多くの国際機関でも日本人はポジションを年々減ってきています。

経営戦略と人材戦略

アベノミクスの成長戦略でもグローバル人財の育成は重要な施策となっております。GDP二倍の国家借金を抱えておりますが、これは将来の需要を二年分先取りしているとも言えます。これは今後マイナス一〇%の成長を二十一年間にわたり負担することにもなりません。年三%の成長を達成するには年一三%の成長を達成しなければなりません。少子高齢化の日本が成長する道は、海外の需要を取り込む以外はないでしょう。幸運にも日本の貿易額はGDP比率約一七%で、世界の中では最低レベルです。中産所得層が急増する新興国、とりわけアジア諸国の需要を取り込む

で行くことに大きな期待が掛けられます。

各社は自社の成長戦略を立案し、それを実行して行くために必要な人材を獲得し育成していかなければなりません。

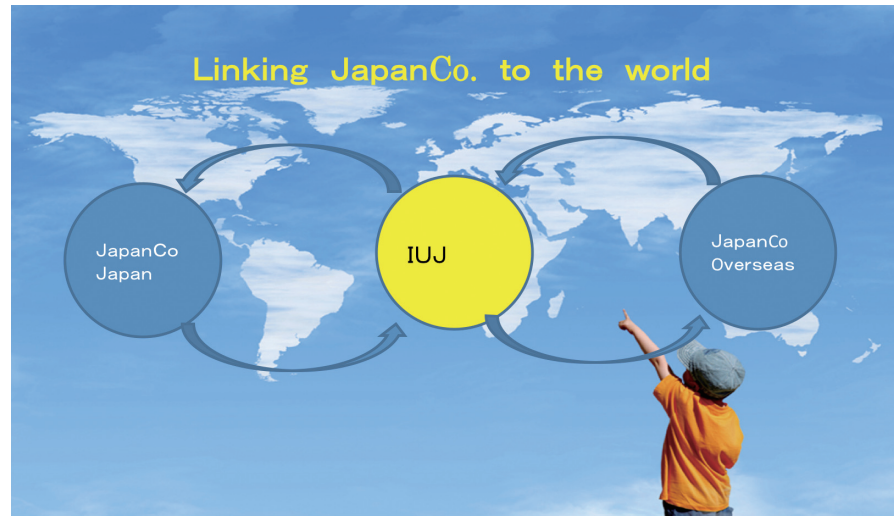
人材育成投資こそが最も投資効果が大きく、企業を成長させ続けます。LIXIL社は一兆円の売り上げを海外で稼ぐために、グローバルリーダー育成を戦略的に実行しております。その戦略の一つが、毎年十名の社員を十年間にわたりMBAに派遣して、百人のコアとなるグローバルリーダーを育成することです。

国際大学の概要

国際大学は三十年前に経済四団体のご支援を受けて創立された大学院大学です。国際関係と国際経営の二つの研究科及びGLOCOMと学内の二つの研究所を併せ持っております。建学の目的は実践的なグローバルリーダーを育成することであり、世界約五十カ国から学生が集まり、全寮制で日夜学業に励んでいます。

すべてのクラスは英語で実施されています。最大の資産は世界中で活躍している修士生のネットワークであります。英国エコノミスト誌MBAランキングでは連続8年にわたり世界トップ100に入っております。さらにグローバルリーダーを育成するために、英語、リーダーシップ、マネジメント

図2 グローバル人材育成パートナーシップ代表的50社と提携



等について企業教育を積極的に推進しております。グローバルリーダー育成プログラム（GLP）と明大キャンパスで週末に行われる経営人財育成プログラム（EDP）は代表的なプログラムです。また、個別企業から一クラス二十名位の参加者を対象にそれぞれの会社のニーズに合った個別プログラムを提供しております。

グローバル人材育成パートナーシップ

国際大学は創立以来企業との関係が深く、三年前から世界に通用するビジネスリーダーを育成するために、日本の有力企業五十社とパートナーシップを提携してきました。これらのパートナーシップは、国際大学が企業の国際市場での成長戦略に貢献することとグローバルリーダー育成でアジアのトップ大学院大学になることを目指し、連携していくことです(図2)。



明治大学 国際大学

図3 戦略的パートナーシップ
グローバルリーダー育成でアジアでTop5、日本でTopになる

明治大学との戦略的提携

今年の三月に明治大学と国際大学は系列法人化になる戦略的提携をしました。明治大学の強固な経営基盤や学生を集める力と国際大学の国際力や経済界との繋がりを掛け合わせて、グローバルリーダーを育成するトップ大学を目指して邁進して行きます(図3)。

最後になりますが、日本の成長戦略はグローバルリーダーの育成なしには立ち行かず、その育成は国家戦略であり、明治大学と国際大学の提携はその世の中の要請に応えるものであります。

【講師略歴】

森正勝(もり・まさかつ)
一九四七(昭和二十二年)一月生まれ(六十歳)
学校法人明治大学系列法人担当顧問(現任)
学校法人国際大学特別顧問、名誉教授(現任)
経済同友会幹事(現任)
アクセンチュア(株)元代表取締役会長
国際大学前学長

以上

◆広報委員会からの「案内」(理事会議事録)

日時：平成二十五年九月二十日(木)十一時
場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

丸山委員長から、入会薦書が提出されている谷原誠氏、布田安男氏、山口大介氏の3名について、組織・会員増強委員会では入会を承認したという報告があり、全員異議なく承認された。

また、今年から、入会を前提に「例会に参加していただく方法を取り入れているが、本日の例会に初めて「体験参加」というネームプレートをつけた方が二名参加されているので、皆さんも積極的に声をかけるなどしていただきたい、との報告があった。

○各委員長よりの報告事項

委員長の連絡会議にあたる運営委員会(第八回)が八月二十日に開催されたので、報告事項がある委員長から、委員会報告をしてもらうことにする。

〈財務委員会 谷委員長〉

前回の運営委員会後、九月十日に財務委員会を開いて、四ヶ月までの収支状況について検討した。収入(年会費)の年間の予算額に対する七月までの実績は、前年度は約七

五%だったが、今年度は昨年より予算額を五十万円ほど多く見積もっているにもかかわらず、実績は八〇・七%となっており、昨年より五ポイント上がり、金額では百万円ほど多くなった。それだけ会費未納者数が改善された結果といえる。支出もおおよそ三分の一の範囲で収まっており、七月までの収支は健全に収まっているといえる。

〈大学支援委員会 中川副委員長〉

今回チラシが封入されているが、十一月八日(金)の「秋期寄付講座」は、当会のメンバーでもある佐々木伸一氏(ルートレック・ネットワークス社長・昭和五十五年工学部卒)が「農業に休日あり」をテーマに講演する。佐々木氏は前回の例会で、工学部出身者が農業の話をするのは畑違いだ、と面白く語っておられたが、工学部出身者による新たな農業ビジネスへの挑戦という興味深いテーマでもあるうえ、当会会員は参加費無料なので、希望される方は事務局にご連絡いただきたい。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

今回入会を承認された布田氏は、ホームページを見て入会を希望されたというが、ホームページもだいぶ認知されてきたことは心強い限りである。ただし内容的にはまだまだ不満も多いので、本日の例会後に広報委員会を開く予定で、さらに充実を図り、次回の理事会ではご報告できたらと思っている。運

営委員会でもよくご意見が出るが、これからの連絡網はメール、ないしはそれに準ずる通信方式に移行せざるを得ず、たとえば校友会でも五十万人のネットワークを作るには、郵送やファックスの時代ではないということになっている。これは広報委員会マターになったので、早々には解決しないと思うが、これからいろいろなお提案をさせていただくので、ご意見があったらお寄せいただきたい。

今日の資料にある「シェイクスピアプロジェクト」の申し込みも、すべてホームページからメールでということになっている。今回の『ヘンリー四世』は、第十回のアニバーサリー講演に当たり、出演者もいつもより多い。明治大学の学生の勢いを見るにはとてもいいイベントで、演劇専攻の学生だけでなく、全学部から参加している。素人っぽいところがすごくよく、観劇料も無料で、当会も後援しているので、大勢の方にご参加いただけたらと思う。

〈坏専務理事〉

十月十九日(土)に、家族を含めた親睦会として「東京湾サンセットクルージング」(十六時二十分からの二時間のトワイライトクルージング)を企画している。今のところ三十五名の参加希望者がいるが、五十名までは可能なので、是非ご参加いただきたい。十二月一日は、現在の国立競技場での最

○その他

長堀前理事長より次のような話があった。今年の司法試験の合格率が約一八%と急落した。あるメディアでは合格率順で大学ランキングを発表しているので、明治大学はなかなか登場しない。明治法律学校でスタートした本学が、合格者数は六十五名なのに、なぜ合格率が一八%台まで低下してしまったのか? 関係者は残念がっている。合格率のトップは慶応義塾大学で、明治もそれに近い所まで持っていくのが、われわれのミッションだと思ふ。そう考えると大学をバックアップする意味で、当会の会員の方々は応援団として様々なアドバイスをしていただきたい。

◆新入会員のご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



谷原 誠
平成三年・法学部卒
みらい総合法律事務所
代表パートナー
東京都千代田区在住



布田 安男
昭和五十四年・経営学部卒
（株）日本能率協会マネジメントセンター
常務取締役
東京都羽村市在住



山口 大介
平成十二年・政経学部卒
（株）やまたけ
取締役事業本部長
東京都中央区在住

◆計報

当会の常任理事・大学支援委員長の舟橋達彦氏（昭和四十六年・工学部卒、明治大学評議員）が、平成二十五年十月二十四日に逝去されました。享年六十六歳。
ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●九月卒業式を挙行

明治大学は九月十九日、駿河台キャンパス・リパティホールで「二〇一三年度九月卒業式」を執り行った。式典には、福宮賢一学長、日高憲三理事長、向殿政男校友会長、各学部長ら大学役職者が出席。学部・大学院合わせて二百二十二人の新たな門出を祝した。

●九月入学式を挙行

明治大学は九月十九日、駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで「二〇一三年度九月入学式」を執り行い、国際日本学部十一人、大学院五十三人（理工学研究科二人、ガバナンス研究科三十四人、グローバル・ビジネス研究科十七人）計六十四人を新たに明大生として受け入れた。

●医学研究用ブタを

効率的に作出する技術を確立
明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート代表の長嶋比呂志農学部教授、同インスティテュートの渡邊将人特任講師、自治医科大学の花園豊教授らの研究グループは、人工酵素と体細胞核移植を組み合わせた効率的な方法により、短期間（六ヵ月）で免疫不全ブタを作ること成功。科学技術振興機構（JST）のホームページと米国の科学誌「PLOS ONE」を通じて、十月十日（日本時間）に世界同時発表を行った。この成果により、新薬開発における安全性、幹細胞治療法やがん治療法の評価・開発、ブタ体内でヒトの血液や臓器をつくる研究が飛躍的に加速する。

●トヨタ社長が車の魅力を明大生に講演

明治大学と日本自動車工業会は九月二十

●新地町に高糖度トマト栽培の植物工場

このたび、農学部の中林和重准教授が発明した「サンゴ砂礫農法」を活用した、高糖度トマトを大規模に栽培する植物工場が、福島県新地町に完成する。
これは、復興庁と経済産業省による本年度の中小企業経営支援等対策費補助金「先端農業産業化システム実証事業」に採択されたもので、明治大学研究活用知財本部を通じて栽培技術を提供する本学の他に、清水建設（本社・東京都）、栽培を担う新地町の農業法人である新地アグリグリーン、セブン&アイ・ホールディングス傘下で東北を地盤とする流通大手のヨークベニマル（本社・福島県）が連携して取り組むプロジェクトだ。

●「父母交流会」十一月十七日開催

連合父母会は十一月十七日、駿河台キャンパスで「父母交流会」を開催する。このイベントは、父母同士の交流やキャンパス見学を通して保護者にも明大を身近に感じてもらう

ことが目的。二〇一三年度は、東京都南部、東京都北部、東京都多摩、神奈川県東部、神奈川県西部、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の計三十四地区が対象地区（全国五十七地区父母会を二分し、交互に開催）。

当日は、昨年に引き続き北野大元理工学部教授の「北野家の訓え」をテーマにした講演会を実施。恒例のクラシックコンサートは、「キュウ・ウオン・ハンと1966カルテット」に決定した。

●第十六回ホームカミングデーを開催

校友を母校にお迎えする「第十六回ホームカミングデー」が十月二十日、駿河台キャンパスで開催された。この日は午前中から雨が降り続くあいにくの天候だったが、三千八百人もの校友やその家族らが来校し、旧友との再会や現役学生との交流などを楽しんだ。

●全国校友大分大会

湯のまち別府に千人超の校友が参集

校友会は十月五日、大分県別府市の別府ビーコンプラザ・フィルハーモニアホールで

●創立者出身地に学生派遣

社会連携機構は、創立者出身地三地域（鳥取県、山形県天童市、福井県鯖江市）で、地域の人々と交流・連携しながら地域活性化への提言を行う課題解決型学生派遣プログラムを昨年度より実施。今年も六月のガイダンスを皮切りに、八月月上旬に一泊二日の現地事前調査、同月下旬に三泊四日の本調査を行った。参加した学生は三地域で計三十七人。ホームカミングデーで、政策提言を発表した。

●明大生らが企画

高齢者・小学生との交流会

明治大学の有志の学生たちと杉並区地域包括支援センターケア24が企画した、高齢者の方々を対象にしたボランティアイベント「大学生&子どもと一緒に楽しむお茶会」が九月十八日、和泉キャンパス近くの施設で開催され、明大生、高齢者、小学生、地域のボランティア、地域包括支援センターの職員など約八十人が楽しいひと時をすごした。

●OB社長

▽進和（卸売業） 〓根本哲夫氏（一九七四年

政経学部卒・六十二歳、十一月二十一日就任予定)

●OB町長

▽鳥取県北栄町長（十月一日無投票）

松本昭夫氏（無所属③、一九七四年商学部卒・六十二歳）

●商学部 JTBコーポレートセールス社長に新事業提案

商学部の「特別テーマ実践科目」で本年度開講された二十三テーマの一つで、JTBコーポレートセールスとの産学連携による「サービスマネジメントの考え方とその手法を学ぶ」（担当〓菊池一夫教授）を受講した学生五十人は、夏休み最終日となる九月十九日、同本社である新宿パークタワー二十六階で、川村益之代表取締役社長や福田敦トラベルクリエイティブ局長らに対して、半年間の学習成果をまとめた「旅」を基軸とする新事業提案報告会に臨んだ。

●大学生観光まちづくりコンテスト2013

九月十八〜十九日に開催された「大学生観光まちづくりコンテスト2013」本選で、経営学部の歌代豊ゼミの学生グループが、西日本ステイジと東日本ステイジの双方で最優秀賞（観光庁長官賞）を受賞し、同コンテ

トにて初の二冠を獲得した。また、政治経済学部の市川宏雄ゼミも東日本ステージで審査員特別賞（山梨県知事賞）を受賞した。

● 公共政策フォーラム2013

日本公共政策学会が主催する「公共政策フォーラム2013」が九月二十八日、東洋大学川越キャンパスで開催され、政治経済学部の市川宏雄ゼミ三年生十人が学生政策コンペの最優秀賞「日本公共政策学会会長賞」を受賞した。

● 高校生による現象数理学の研究発表会開催

先端数理学インスティテュート（MIMS）現象数理学研究拠点（CMMMA）は十月十三日、「身の回りの現象を数理の目で見る！」をテーマに、中野キャンパスでは初となる「高校生による現象数理学研究発表会」を低層棟五階ホールで開催した。広島大学附属高生ら六グループの口頭発表と、二十のポスター発表が行われ、約百人が現象数理学の研究を通じて交流した。

● 建築学科×川崎市市民ミュージアム

理工学部建築学科三年生が授業で制作した図面と模型が川崎市の博物館・美術館である川崎市市民ミュージアムで開催中の特別展「カワサキ・シティ…日本を牽引する街」に

展示されている。十一月十日と二十四日には、出展した学生が自ら作品を語る「Studentsトーク」も開催される。今回川崎市市民ミュージアムの開館二十五周年記念事業で展示されているのは、建築学科の演習科目「計画・設計スタジオ1」の優秀作品。

● 「企業と大学との就職懇談会」開催

大学と企業の連携を深め、学生の就職を支援

就職キャリア支援部は十月二十三日、日高憲三理事長、福宮賢一学長をはじめとする大学役員・役職者、各学部・大学院の就職担当教員が企業の採用担当者と情報交換を行う「企業と大学との就職懇談会」を駿河台キャンパスで開催した。

この懇談会は、明大側から教育内容や就職支援の現状について、企業側からは採用状況や採用意欲などの情報を交換することで互いの連携を深め、明大生の就職と企業の採用活動に役立てようと、毎年開催している。

● 学生団体メッセを開催

学生団体の存在、活動を広く社会に伝えたい。商学部の小川智由ゼミと化粧品メーカーの柳屋本店が協働する柳屋広報明治大学支局は十月十一〜十三日、学生団体の認知度を向上を目指した「学生団体メッセ」を、千代

田区神田淡路町のワテラスコモンホールで開催した。柳屋広報明治大学支局は新しい広報戦略やコミュニケーション手法を研究、実践することを目的に昨年六月発足した産学連携プロジェクト組織で、今回は同支局が主催する初めてのイベントとして開催された。

● 世界に広がる協定校

明治大学は、モスクワ国際関係大学、モンドラゴン大学と大学間協力協定を、タマサート大学政治学部と学部間協力協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地域で、二百二十三大学（学部間協定などを含む）となった（十月十七日現在）。

● グローバル30採択大学が

産学連携フォーラムを開催

文部科学省の国際化拠点整備事業（グローバル30）に採択された十三大学は九月二十六日、東京都千代田区の経団連会館で「グローバル人材を活かす産学連携」をテーマとした「第四回グローバル30産学連携フォーラム」を経団連と共同で開催した。

● ファッション・ビジネスプログラム

協定校校長らが来校

▽仏モダール・インターナショナル学院校長が来校

ファッション・ビジネスを専門とするフランス・パリの「モダール・インターナショナル学院」校長パトリス・ドゥ・ブラス氏が十月二十一日、駿河台キャンパスを訪れ、商学部「ファッション・ビジネス論」（斎藤和弘特任教授）の授業で、明大生に本場パリでファッションを学ぶ意義を語った。

▽集中講義「アジア市場のファッションビジネス」も開講

商学部は十月十五日から七日間にわたって「ファッション・ビジネスの実践論―アジア市場のファッションビジネス―」を開講。ファッションマーケティングを専門とする中国・東華大学の楊以雄教授（商学部客員教授）が、中国やアジア各国の市場におけるファッション・ビジネスの動向について、日本・欧米と比較しながら講義を行った。

● 「グローバル人材と企業のアジア展開」シンポジウム開催

明治大学は八月二十七日、日本経済新聞社と共催で「グローバル人材と企業のアジア展開」をテーマにしたシンポジウムを、駿河台キャンパスのリバティホールで開催した。企業やアセアン地域の大学関係者らも含め、定員を上回る約六百人が参加。成長市場であるアジアでの事業展開に必要な人材の育成について、多角的な議論が展開された。

展示されている。十一月十日と二十四日には、出展した学生が自ら作品を語る「Studentsトーク」も開催される。今回川崎市市民ミュージアムの開館二十五周年記念事業で展示されているのは、建築学科の演習科目「計画・設計スタジオ1」の優秀作品。

● 「フランス人の『作り方』Ⅱ」を開催

文学部フランス文学専攻は十月五日、在日フランス大使館やアンステイテュ・フランス日本などの後援を得て、高校・大学連携フランス体験講座「フランス人の『作り方Ⅱ』」を駿河台キャンパス・リバティタワーで開催。高校生を含む約百人が参加した。

● 商学部生がポーランドでプレゼン

商学部の特別テーマ実践科目「ファッションビジネス」の受講生を中心とした同学部生九人が九月十八〜二十九日、ポーランドの国立美術大学「ストラゼミンスキーアカデミーオブファインアートウツジ」で、ファッションビジネスとマーチャндаイジングの展開に関するプレゼンテーションを行った。

● 中野区とニュージーランドの

交流事業に参加

国際日本学部・国際交流学生委員会の学生十人が十月六日、中野区の勤労福祉会館で開かれた中野区とニュージーランド・ウエリントン市の交流プログラムに参加した。

国際交流学生委員会は国際日本学部の留学生のサポートや、日本人学生との交流イベントを実施しており、今回の交流プログラムでも企画・運営を担当。ウエリントン市の中学生とそのホストファミリーら約六十人が、

学生が企画した伝言ゲームやジェスチャーゲーム、だるまさんがころんだなどを通じて親睦を深めた。

● 第八回UNHCR難民映画祭を

ニキャンパスで開催

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所が主催する難民映画祭で、明治大学は協力校として九月三十日から十月五日までの間に和泉図書館ホールで五作品、中野キャンパスホールで一作品を上映。参加人数はのべ六百六十人に達した。

この映画祭は難民が抱える問題への理解を目的として開催されている。二〇一〇年に本学と同事務所が「難民を対象とする推薦入試に関する協力協定」を結んだことから、難民という国際社会が共有する問題への一層の理解を促進するために、昨年度から本学キャンパスで開催している。

● 英ケンブリッジ大学生劇団が

シェイクスピア上演

英国ケンブリッジ大学の学生劇団「ペンブルック・プレイヤーズ」が十月三日、グローバルフロントのグローバルホールでシェイクスピア喜劇「ヴェローナの二紳士」を上演した。会場は滑稽な演技や台詞回しに、何度も笑いの渦につつまれ、本場の演劇を堪能

した。
明治大学での同劇団の上演は今年で六回
目。国際連携本部は地域研究として「英国研
究」を実施しており、この研究の一環として
二〇〇七年から同劇団を招聘している。

●和泉図書館 グッドデザイン賞など受賞
二〇一二年度に開館した和泉図書館はこ
のほど、従来の図書館の印象を大きく覆して
いるとして「二〇一三年度グッドデザイン
賞」(日本デザイン振興会主催)を受賞した。
また、優れたサインデザイン作品に贈られる
「SDA賞」(日本サインデザイン協会主催)
や、優秀な照明施設を顕彰する「照明普及
賞」(照明学会照明普及分科会主催)も受賞
した。

●中野キャンパスが
「なかのみどりの貢献賞」を受賞

明治大学第四のキャンパスとして今年四
月に開校した中野キャンパスが「なかのみど
りの貢献賞」(緑化貢献企業等部門)を受賞
した。

この賞は、中野区が地球温暖化防止対策
の一環として、緑化の推進や保全活動に関し
功績のあった個人や団体を五部門に分けて表
彰するもので、今年で二回目。中野キャンパ
スは、区の新しい顔として先進的な緑化を実

現している点が評価された。

●第三回 eプレゼン・コンテスト
表彰式を開催

「学生対抗!第三回 eプレゼン・コンテス
ト」(主催:ユビキタスカレッジ運営委員会)
の表彰式が十月十一日、駿河台キャンパス・
グローバルホールで開催された。式では最優
秀賞(二作品)、優秀賞(三作品)、審査員特
別賞(二作品)、ベストエフォート賞(一作
品)、S S (Silver Stream) 賞(二作品)、
東証賞(二作品)、佳作(六作品)の各受賞
作品が発表され、受賞した学生が喜びの表情
を見せた。

●「ネット選挙は新たな『公共圏』を生み出
すか」を開催

情報コミュニケーション学部清原聖子ゼ
ミは十月十一日、シンポジウム「ネット選挙
は新たな『公共圏』を生み出すか」二〇一三
年参院選を振り返る」を、駿河台キャンパ
ス・リバティタワーで開催。学生や一般の参
加者約六十人が集まり、今夏注目を集めた
「ネット選挙」について考えた。

●お茶の水 JAZZ 祭

明大で一流の JAZZ を堪能
第七回お茶の水 JAZZ 祭(主催:明治大

決めた。同一年での春秋連覇は、一九七五年
以来三十八年ぶり。

●ドラフト 岡大海選手、日ハムへ

プロ野球の新人選手選択(ドラフト)会
議が十月二十四日に開かれ、体育会硬式野球
部の岡大海選手(政経4)が北海道日本ハム
ファイターズから三位指名された。

●柔道部 国内外で三人が優勝

体育会柔道部男子は、九月二十八〜二十
九日に日本武道館で行われた全日本学生柔道
体重別選手権大会で、男子六十六キロ級は主将
の六郷雄平選手(政経4)、男子百キロ級を
制した寺崎達也選手(政経4)がともに優勝
を獲得。六年ぶりに二階級制覇を達成した
また、十月二十四日にスロベニアのリュ
ブリャナで行われた世界ジュニア選手権大会
に出場した橋口祐葵選手(政経1)は、六十
六キロ級で今大会では日本勢初となる優勝を決
めた。

◆駿台トピックス

●シンフォニー東京湾クルーズを開催

東京湾のサンセットと会員の小濱雅説氏
(はとバスグループ株式会社シーライン東京
取締役旅客本部長調理部長総料理長)ご
自慢のフルコースを楽しもうという総務事業

で共同記者会見を開催。来年からの改修工事
のため、現・国立競技場では、最後の「一戦」
となるこの試合を盛り上げるべく、どちらの
大学が国立をホーム(本拠地)にできるかを
競い合う「国立をホームにしよう」プロジェ
クトを始動させることを明らかにした。

●水泳部 日本学生選手権

第八十九回日本学生選手権水泳競技大会
が、九月六日〜八日に広島ビッグウェーブで
開催され、二百メートル平泳ぎに出場した小日向一
輝選手(商1)が二分一〇秒四三で初優勝を
果たした。さらに男子二百メートルバタフライでは
平井健太(商1)が一分五六秒二五で初優
勝。期待の一年生ルーキーが活躍した。

また創部以来初出場の女子八百メートルリレー
では、関根理沙(経営2)・藤井ひかり(法
1)・神村万里恵(情コミ1)・住吉茉莉(情
コミ2) 四選手が八分八秒八〇で初勝利を飾
り、明大勢は計三種目を制した。

総合成績では男子が五位に位置し、第九
十回日本学生選手権水泳競技大会へのシード
権を獲得した。

●東京六大学野球三十八年ぶり春秋連覇達成

体育会硬式野球部は十月二十八日、東京
六大学野球秋季リーグで法政大学に五―三で
勝利し、二季連続となる三十六回目の優勝を

学・お茶の水 JAZZ 祭実行委員会)が十月
十二日、駿河台キャンパス・アカデミーホー
ルで千人を超える観客を迎え開催された。

冒頭、あいさつに立った本学校友で総合
プロデューサーの宇崎竜童氏と総合同会阿木
耀子氏は、「今回は、チケットの売れ行きが
早かった。十年続ければ実を結ぶと思ってい
たが、七回目にしてこのイベントが定着して
きたことに驚きと嬉しさを感じている」と喜
び、協賛・後援企業や団体に謝辞を述べた。

●スキー部 新合宿所が東京・中野に竣工

明治大学体育会スキー部の新たな活動拠
点となる合宿所の新築工事竣工式が九月十一
日、東京都中野区の新合宿所にて執り行われ
た。日高憲三理事長、三木一郎学務担当理
事、松本隆栄総務担当理事ら大学役職者や、
スキー部の木谷光宏部長、成田収平監督、O
B会「駿台スキー倶楽部」関係者が多数列席
し、設計・施工を担当した大成ユーレックの
役員らとともに完成を盛大に祝った。

●十二月一日明早戦

最後の国立で明大校歌を歌おう!
積年のライバルが、がっちりスクラム
を組む。十二月一日に控えた大学ラグビー
伝統の一戦「明早戦」を前に、明治・早稲田
両大学のラグビー部が九月九日、国立競技場

委員会の企画による「シンフォニークル
ズ」が、十月十九日に開催されました。参加
者は山口政廣会長をはじめ会員二十六人に
ご同伴の奥さまなども加わって三十九人。豪華
客船「シンフォニー・モデルナ」(二六一八
ト)で午後四時半に日の出桟橋を出航して、
お台場、羽田空港、そして東京ゲートブリッ
ジなどの夜景クルーズをたっぷり二時間、小
濱さんやスタッフにこれまた味わい深い解説
をいただきながら、とっておきのディナーと
ドリンクを満喫しました。



心地よい酔いに東京ゲートブリッジが奇しくも紫色に浮き上がると、「歓迎、明治大学だ！」などというジョークも飛び出しました。そして、杉浦伸二幹事の司会で全員が自己紹介、大前実之会員のリードで校歌を声高らかに歌い上げ締めとなった初の洋上懇親会は大いに盛り上がりました。シンフォニークルーズの詳細は下記の通り。

<http://www.symphony-cruise.co.jp>

●寄付講座「農業に休日をも」を開催

(株)ルートレック・ネットワークス代表取締役で当会会員の佐々木伸一氏（一九八〇年・工学部電気科卒）が十一月八日、駿河台キャンパス・グローバルフロント一階グローバルホールで「農業に休日をも」と題して、連合駿台会寄付講座を開きました。

佐々木氏は、長く国際ICT界で培ってきたノウハウを、環境汚染や高齢化問題にさいなまれ、さらにTPPという荒波にもまれこもうとしている農業問題を打開するために生かそうという養液土耕栽培システム「Zero-agri」を、母校明治大学の農学部などととも産学連携で研究開発し、積極的に実用化を図っている今を、熱く語ってくださいました。

まさに時代の要請に応えるこの画期的なシステムは、クラウド時代に入り誰でも低廉



に利用できるコンピューター設備を使って、いわゆる点滴のように栄養成分を溶かした培養液を作物に供給することによって安定的に収穫増を図ろうというもの。日本の中小規模農家にも適合するように、現状では平均六十七歳という農業従事者の豊富な経験をもシステムの改善に生かしながら、より合理的な農業ビジネスとして次世代にも魅力的なものにしていくと言います。

聴講した商学部学生から質問を受けると「士はともかく、ここまで農、工で作ってききました。あとはあなたのような商の力が是非とも必要なのです」とメッセージを伝えるなど、明治大学スピリットの「前へ」が原動力であることを強調していました。

◆九月例会出席者

青木孝、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、有賀隆治、同ご友人二人、池田勝也、池田利幸、石川かおり、石橋良一、伊東正博、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、内出満、内田八郎、海野美津雄、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、岡本満夫（代理）、小野寺弘三、勝俣正義、菊部彰夫、河合秀二郎、木下重次郎、河野典男、古賀慎一郎、兒玉圭司、小山修、根田哲雄、根田吉雄、斉藤春夫、斉藤弘之、齊藤柳光、坂田英夫、桜井保彦、佐藤健、眞田瞳、白井宏一、同ご友人、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、宗邦雄、園部洋士、高澤徹、高橋郁夫、武内裕、武田宣夫、竹中繁夫、谷慈義、田村駿、徳丸平太郎、泊三夫、中川敏洋、中島御幸、長堀守弘、同ご友人、長見茂、中村豊、並木洋一、西崎誠次郎、西山武夫、二宮充子、二宮忠野、野口昌宏、橋口隆二、長谷川進一、馬場範夫、林威樹、原田榮、樋口郁夫、日高憲三、福田和彦、福山紘太郎、富士豊、藤代耕一、前川一郎、松崎優子、摩尼和夫、水野智史、宮本浩二、向井眞一、六井元一、山口政廣、山田朝彦、山田勝、山田幸夫、義江邦夫、渡邊智恵子、渡辺紀之、渡邊洋三